

「はい、石田建設でございます」

「私、足立と申します。雑誌の求人を見てお電話をさせていただいたのですが、人事担当の小野さんはいらっしゃいますか？」

「小野はただ今席を外しております。午後一時頃には戻る予定ですが」

「そうですか。では、一時頃に改めてお電話いたします。失礼いたします」

「はい、石田建設でございます」

「私、本日午前中にお電話をいたしました足立と申します。人事担当の小野さんはお戻りでしょうか？」

「はい、少々お待ちください」

保留のメロディがしばらく流れ、

「お待たせいたしました。小野です」

「私、足立と申します。雑誌の求人を見てお電話させていただいたのですが、まだ募集はしていらっしゃいますか？」

「はい、まだ募集しております。一般事務と営業どちらをご希望ですか？」

「一般事務を希望しております」

「そうですか。では、最初に書類選考を行いますので、七月二十日までに履歴書をお送りください。書類選考で合格された場合には、後日こちらからご連絡いたします。不合格の場合には、履歴書はこちらで責任をもって処分させていただきますのでご了承ください」

「わかりました。それではすぐにお送りしますので、よろしくお願いいたします」

数日後、足立の家に石田建設からの連絡が入った。

「はい、足立です」

「こちら、石田建設人事部の小野と申しますが、明さんをお願いします」

「はい、私ですが・・・」

「先日、足立さんの方から履歴書をお送りいただきまして、厳重な書類選考を行った結果、合格となりました。つきましては、後日面接試験を行いたいと思います。

当社の面接日程としては、来月五日と六日の二日間の予定です。その両日のいずれかであれば、足立さんのご希望の日で構いませんが」

「そうですか。それでは五日にお願いできますか？」

「わかりました。では五日に面接の予定を入れておきますので、当日は午後一時までに一階の会議室の方においでください。その日、面接試験を受ける人は足立さんの他にも何人かいらっしゃいますので、面接の順番を待つ間、一般常識と作文の試験を行います」

「はい、わかりました。それから御社の場所なんですけど、駅から歩いて五分とお聞きしているのですが、詳しい道順が分からないので教えていただきたいのですが」

足立は、駅から会社までの道順を聞き、手帳にメモを取った。